

何人知っていますか マクリーンズ誌の カナダ12傑

前回に続いて、カナダ各界の国民的人気者をご紹介します。前回はスポーツのスターや映画監督など華やかな人が多かったのに対して、今回は福祉事業家やプロモーター、少数民族の指導者など、地味で苦勞の多い活動や裏方に精をだしている人が多い。

■ 歌手・カナダ文化振興会会長 モーリーン・フォレスター



カナダ随一のクラシック歌手として有名なモーリーン・フォレスターだが、彼女はカナダ文化振興会の会長という重責も立派に果たした（最近交代した）。

フォレスターは最初、教会の聖歌隊で歌っていたが、1950年代にアメリカの指揮者ブルーノ・ウォルターに認められて、国際舞台に飛び出す。以来、コントラルト歌手として、北米各地をはじめ、ヨーロッパやアジアなどで公演してきた。

1983年に、アーティストや文化団体の助成機関・カナダ文化振興会の会長に就任してからは、同振興会の独立性を守り、アーティストの地位向上を図り、カナダ文化を発展させることに、エネルギーを注いできた。彼女はまた、オンタリオ州にあるウィルフリッド・ローリエ大学の総長も兼ねている。

■ ケベック出身の劇作家 ルネ＝ダニエル・ドゥボア

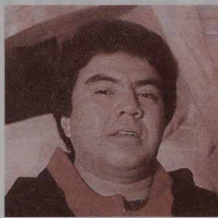


いつもにこにこして、当たりのやわらかいルネ＝ダニエル・ドゥボアだが、柔和な表情の裏には、驚くような能力や闘志が秘められている。劇作家ドゥボアは、その超現実主義的な作品の中で、現実世界がもつ危険性を警告する。昨年4月にトロントで公演された「クロードとの生活」は、同性の恋人を殺した

男娼に対する警察の取り調べをテーマにしたもので、ニューヨークで朗読されたときは、観客が劇場を埋め尽くした。

ドゥボア自身は、こう述べている。「ケベック人もカナダ人も、あまりに安楽すぎる。ぼくは、カナダ以外の国々における苦痛や苦難に無関心でおれるという彼らの考えに挑戦しようとしているだけだ」

■ ハイダ族の指導者 マイルズ・リチャードソン



数年前、マイルズ・リチャードソンはハイダ族の伝統的なポットラッチ儀式に参加して、ハイダ族の名前をもらった。族長がポットラッチの儀式を行ない、名前を授けたという事実は、彼がハイダ族からいかに尊敬されているかを示している。

リチャードソンの大きな功績は、ハイダ族協議会の指導者として、2年間にわたり、木材会社や連邦政府およびブリティッシュ・コロンビア州政府に対して、クイーン・シャーロット島の南半分に広がる先祖伝来の土地を守り、伐採を中止させる闘いを展開し、成功させたことにある。

1987年7月、マルルーニー連邦政府首相とバンダーザームBC州首相は、一帯を永久に雨林の残る国立公園用地にするという趣旨の、総費用1億6千万ドルの協定書に調印した。

■ 夢のホッケー国際大会を実現させた マルセル・オビュ



1987年2月。凍つくケベック市に、クライスラー社のアイアコッカ社長、ピエール・カルダンといった世界の超有名人が集まった。ソ連の赤軍コーラスが歌い、ポリショイ・バレエ団が踊り、そしてカナダ、米国、ソ連のアイスホッケー・チームが火花を散らす「ランデブー87」を見るためである。この祭典を組織したのが、マルセル・オビュ。モントリオール・カナディアンと並ぶナショナル・ホッケー・リーグ(NHL)の雄ケベック・ノルディック・チームの会長である。オビュ氏はこの祭典を実現させるために、モスクワでシェワルナゼ外相とじかに交渉した。

同氏が辣腕をふるったのは、これが最初ではない。1979年にはワールド・ホッケー

協会とNHLの合併を実現させ、1984年にはこれまで1テレビ局が独占放送していたNHLのゲームを開放して、各チームの収入を増大させた。

次の夢は、「冬期オリンピックをケベックで開くこと」だという。

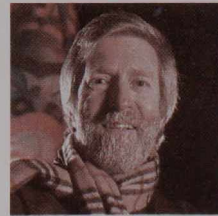
■ スポーツ着チェーンの経営者 シルビア・レンベル



カルガリー冬期オリンピックでカナダの選手、役員、ボランティアおよそ1万人が着たスポーツウェアには、すべてサン・アイス社のマークが入っていた。1982年と1986年にエベレスト登頂をはたしたカナダの登山隊が着たのも、同社のスポーツウェアである。

スポーツウェアおよびレジャーウェアでは北米有数のメーカーとして知られるこのサン・アイス社は、1950年代始めに西ドイツから難民としてアルバータ州に移住したシルビア・レンベルさんが一代で築いた会社だ。仕事の虫で、現在も同社の製品のほとんどは彼女がデザインする。製作現場で常に目を光らせている彼女を、従業員は「鷲の目」と呼ぶ。

■ 新しい方法で貧民救済 マーティン・コネル



1980年にインドのカルカッタを訪れた際、パキスタン内戦による難民の集結場に出くわした夜を、マーティン・コネルは忘れない。「暗やみの中で見えるものといえば、小さな焚火とその回りにうずくまった家族たち。薄気味悪く、またショックででした」

第三世界で見たこうした光景が、コネルに大きな影響を与えた。コンウェスト開発会社の会長である彼は、1983年、自らの資金45万7千ドルを注ぎこんで、新しいタイプの経済開発を行うキャルメドウ・チャリタブル財団を設立した。途上国の零細企業に少額の援助をすることによって、地域の経済を改善しようという発想からである。

連邦政府の対外援助機関であるカナダ国際開発局の支援を得た同財団は、2年間にブラジルとメキシコで20万ドルを零細企業援助にあてた。1987年には、コロンビアでも同様の援助計画を開始した。